

新規スポンサーを募集中 目標数は、12月末までに、

4000人

新型コロナウイルスの影響は甚大で、世界中に危機的状況が拡大しています。
今後6ヶ月の内には、2億6500万人が飢えに直面します。

私たちは、メトロの子どもたちに命をつなぐ食事を提供することができます。
毎年、ビル師が世界ツアーを行ってたくさんの新規スポンサーが起こされてきました。
しかし、ニューヨークが新型コロナの影響でロックダウンされたことで、
2020年に予定していたビル師の世界ツアーは中止となりました。

この危機的状況の中で子どもたちを救うためには、さらに4,000人の子どもたちにスポンサーが必要です。
そこでメトロでは、2020年12月末までに、世界中で新規スポンサーが4,000人とえられることを目標に掲げました。
サポートが必要な子どもたちが、今、助けを待っています。

これを成功させるためには、現在スポンサーとなってくださっているあなたがキーパーソンです。

お知り合いの方に、メトロをご紹介します。

メトロのホームページを、シェアしてください。

新規スポンサーが与えられるために、お祈りください。

もうひとり別の子どもの支援を始めてください。

あなたの力が必要です。

全世界で4000人、無謀でしょうか？

いいえ 神の助けとあなたのご協力によって、実現します。



詳細動画&スポンサーお申込みは [こちらから](#)

パンフレット請求・お問い合わせ等は日本事務所まで



電話 03-3561-0174
FAX 089-925-1501
メール metrojapan@mission.or.jp
URL <https://metroworldchild.jp/>

アメリカ インターン生募集!

2020年9月から2021年6月27日(10ヶ月)の
インターンシップ(研修)に参加しませんか。
詳細は、6ページをご覧ください。
参加を希望される方は、今すぐ日本事務所まで!

今月号の目次

P2~3...フィリピンからのレポート
P4~5...インターンシップを終えて
P6...日本事務所からのお知らせ

「今日が土曜日だったらいいのに…」

フィリピンメトロスタッフ ハンナさんからのレポート

—コロナウイルスのためにマニラがロックダウンされた後の4月の内容です—

「今日が土曜日だったらいいのに…」というのは、2月末、日曜学校の新学期が始まった直後に訪れた家庭訪問先で、幼い男の子の口からこぼれた言葉です。その後、道ばた日曜学校は3週間しか続けられませんでした。

都市封鎖は4月30日までの予定ですから、解除されたらすぐに「火を噴く銃」のように熱く再始動するつもりです…そう祈っています。ただ、現状を見ると、どうなるかはわかりません。(ロックダウンは段階的に緩和されていますが、6月30日まで延長され、厳しい状況が続いています。)

「今日が土曜日だったらいいのに」という言葉の理由は実にシンプルでした。その男の子は、毎日が土曜日ならいいと思っているというのです。それは、土曜日には道ばた日曜学校に行ってポウル1杯の食べ物もらえるからでした。

まさか、その日を限りに1カ月以上も会えない日が続くなんてその時は思いもしませんでした。

多くの子どもたちにとってメトロの日曜学校は、霊的な栄養だけではなく肉体的な栄養源でもあります。この「釣り針」のお陰で私たちは「子どもをとる漁師」として活動できているのです。

しかし釣り針がなくても福音は宣べ伝え続けなければなりません。このような時にこそ私は真実を覚えます。すなわち、私たちが無力感を抱くときでも、イエス様がその力を失ったことはない、という事実です。

道ばた日曜学校は開催できないかもしれません。私は訪問先の男の子と会えないかも知れません。でもイエス様は確かにそこにおられるのです。聖霊様は確かにそこに、子どもたちと共にいるのです。子どもたちの小さな心に、今抱いている恐れよりはるかに大きな信仰が芽生えるよう、どうか共にお祈りください。



かつてない 先行き不透明感の中で

2020年3月12日。この日のことは忘れられないでしょう。フィリピン政府は次の日曜施行に向けた政令および指針を可決し、それによって多人数の集会が禁止となったのです。道ばた教会学校のスタッフと私は屋上に集まって、この先どうするべきか、知恵を与えていただけるよう祈りつつ賛美の歌を捧げました。そして、どうなるかはわからないものの、通常の道ばた日曜学校に代えて小さなグループを作ることにしました。

「というのは、私が福音を宣べ伝えても、それは私の誇りにはなりません。そのことは、私がどうしても、しなければならないことだからです。もし福音を宣べ伝えなかったら、私はわざわざに会います。」

コリント人への手紙 第一 9章16節



伝える方法は変わっても伝えるべき福音は変わらない

翌日の金曜日、私は3つの日曜学校を共に運営しているスタッフ全員を集めて政令の内容を共有し、どのような形で日曜学校を継続するか話し合いました。そして、5つのグループに再編成して従来よりも広い範囲をカバーすることとしました。私たちのテーマはこうです。「全き愛は恐れを締め出す」。スタッフ全員が罪の悔い改めの祈りの方法を確認しつつ、さらに多くの知恵と恵みを求めて祈り、それから子どもたちに日曜学校のスタイルが変わることを知らせるために各地域へ向かいました。

そして次の土曜日、3月14日はとても素晴らしい日になりました！ かつて自らが道ばた教会学校に通う子どもだった十代の若者たちが、家から家を巡って個別に福音を語って歩いたのです。そして私たちも、各所で大人や子どもを30人を超えない範囲で集め、神の愛を語りました。

その日、私は子どもたちの様子を見て喜びを感じましたが、実は、働き人たちの活躍ぶりに圧倒されていました。自分たちが暮らす近所の家々で、彼らは大胆に福音を宣べ伝えていたのです！ その日は、他の週よりも多くの子どもたち（そしてその親たちも）と新たにつながりを持つことができました。神様はまことに、すべてを統べ治めておられます！



準備期間は決して時間の無駄ではない しかし いくらでも無駄にすることはできる

外出規制の中で、メトロの建物内に閉じこもったまま、常に前向きな状態を保つことは至難の業です。皆の安全のためには動かないことが最善だとわかっていても、飛び出して福音を語りたいという思いが変わることはありません。しかしある日の朝、屋上でデポーションをする中で（そのための場所があることに感謝！）、神様が語りかけてくださいました。「準備期間は決して無駄な時間ではない。しかし自分次第で準備期間を無駄にすることもできる」。外出禁止期間であれ、それ以外の時であれ、どのような状況でどこにいても、私たちに与えられている時間はすべて、有効利用するために神様が与えてくださったものです。では私たちは、いえ、私は、この準備期間に何をすべきでしょうか。

私たちは今、次の学期の日曜学校の計画やそのための道具作り、インターンの教育を行っています。もちろんキャンプの準備も。今年、キャンプができるかどうかはわかりません。でも、祈っています。そしていずれにしても、私たちは備えるのです。

どうかこの準備の時を、私たちが知恵を用いて有効に使うことができるようお祈りください。



献金募集！

これまで、たくさんの方々がメトロへの献金をささげてくださいました。ことを感謝しております。現地からも、支援物資を受け取った方の感謝の言葉が届いております。

しかし、厳しい現状はまだ続いています。新型コロナウイルスの影響は、貧困地域を直撃しています。空腹で苦しむ子どもたちとその家族の元に食料を届けるため、メトロにご協力をお願いします！



METRO Philippine インターンシップを終えて

メトロ・フィリピンのインターンシップ(研修制度)に2月4日から4ヶ月参加された平澤 一浩 様のレポートをお届けします。

研修に行く前の事情

昨年9月に2週間ほど、事前に現地を訪問しました。その時は、2019年度の道端教会学校をしている時でした。現在は日本事務所でご奉仕をしているインターン生が活躍している姿を見てきました。日本に戻ってきた時に、このミニストリーをもっと長い期間、本格的に学びたい、関わりたいと思いました。その時の私は、子どもが生まれたばかりという状況の中で、4ヶ月もの長期間、家を離れることは不可能に思っていたのですが、その道も開かれてすべての準備が整えられ、日本を離れることができました。



写真中央が平澤様

研修中の現地の様子やスタッフの働きについて

研修は2月初旬からでしたので、日本ではまだ今回の新型コロナウイルスについてはあまり大きく取り上げられていなかった時期に、フィリピンに向けて出発致しました。

現地ではすでに、新型コロナについてスタッフをはじめ、各教会でも祈っていて、日本との違いに驚きを覚えました。インターンの学びが始まると、この働きについて学びたいと思っていた内容を知ることができました。

このミニストリーは、キリストの体に多くの器官があると聖書にある通り、様々な働きが組み合わされているのだと感じました。フィリピンでは、本部スタッフが直接行っている道端教会学校が14か所、さらに、パートナーチャーチ(協力教会)が25余教会あり、それぞれの教会の規模に応じて複数箇所の道端教会学校を行っていて、1週間で6000人～7000人の子どもたちに福音が届けられていました。

パートナーチャーチが行う道端教会学校の働きのために、毎週火曜日にトレーニングが行われ、各スタッフが5つの地域に派遣されていました。このトレーニングによって、道端教会学校の質が高められていく仕組みとなっています。

各地域教会の担当者はそれぞれの仕事や学校が終わってから集まっていました。そこで、学んだことを持ち帰り、グループのメンバー等と共有していき、週末の道端教会学校

に向けて準備をしていました。

そして道端教会学校の前日には、必ず家々を回って案内をしていますが、この家庭訪問も重要な働きの1つとなっています。ゆっくりと時間をかけて家々を回り、コミュニケーションの中で食糧などの生活状況の確認と信仰的な成熟を促す活動をしていました。道端教会学校に行き、そこで救われて地域教会へとつながること、また、学校へ通うことができるように支援していくことが大きなビジョンとして描かれていました。

そのために、一人の子どもを支えていくメトロのスポンサーシップ(里親制度)があります。その子どもが生きるために必要な食糧、学業へのための支援、教会キャンプなどに参加するための支援などが用意されています。スポンサーについての詳細は、メトロの日本事務所、またはHPまで！

現地で学んだこと

施設での研修が終わり、実際の道端教会学校が始まったのが2月18日でした。それから3週間が経過した頃、事態が大きく変わってきました。今回の新型コロナウイルスの影響は大きく、マニラ市内はロックダウン(都市封鎖)という状態となり、地域教会へのトレーニング、道端教会学校、家庭訪問など、外へ出る活動が一切できなくなったのです。

2週間～4週間毎に、政府からのロックダウン延長の通達があり、幾人かのスタッフは自宅待機のまま、そして幾人かのスタッフは自宅に戻れず、そのまま本部で過ごすことになりました。私は、当初の予定通り、5月18日にインターンシップの日程が終了するのを待って帰国いたしました。フィリピンから参加していたインターン生は、自分たちの住んでいる郊外の都市まで公共交通機関が動いていないため、戻れる目途が立たない状況でした。

そのような中で、メトロ・フィリピンのスタッフたちは、何かできる事はないかと模索し続けていました。一時、スモールグループならできるのではないかとこの情報があり、その可能性を見つければ、そのための研修ビデオを作成し、協力教会が学ぶ機会を持てるようにしたりするなど、メトロの働きに対する情熱を感じました。



初めの数週間でしたが、道端教会学校と家庭訪問に行き、子どもたちが置かれている状況を見てきました。私が担当したところは、「マーケット 3」という、約 300 人の子どもたちが集うところでした。ここは魚市場の近くにあり、また、様々なゴミが集まってくる場所の横でもあり、海の近くで、水はけも良くないため、衛生面においては、非常に悪い場所でした。



子どもたちはゴミの上で遊ぶのですが、ごみの中から遊べるものを見つけ出していました。ある子どもは下着もなく、野糞をして、ゴミでおしりをふいたりしていました。

それぞれの家は、ベニア板で仕切られている「部屋」という感じでした。時には、子どものいない高齢者のみの家も見受けられました。スタッフによると、彼らは夜通しゴミを集める仕事などをしているので、訪問する時刻には、休んでいる男性もいるとのことでした。

道端教会学校の参加対象者は 4 歳～12 歳までの子どもです。それ以上の年齢になると、働き人として道端教会学校



を支える側になれるように訓練していきます。道端教会学校に来ている子どもたちの中には学校へ行けず、近くの魚市場で働いている子もいるので、訪問時はそのような子どもがいないか探して回り、近況などを聞いたりしていました。

ショックだったことや嬉しかったこと、そして研修が終わってからの感想

このインターンの期間を通じて学んだのは、どの働きにおいても共通することだとは思いますが、キリストへの情熱を持ち続ける事が主の働きを前進させる鍵となるということでした。それがあからこそ、どのような状況に置かれたとしても、なんとかして働きを前進させようとするのだと感じました。スタッフとの交わりの中で、メトロの働きに関わることをやめてしまう働き人もいて、その人たちは、はじめのパッション(情熱)を失ってしまったのではないかと話してくれました。そのことを考えていた時、この情熱を自分が失ってしまわないように聖書を読んだり、祈って礼拝に出席したりすることを優先的に選び続けていかないといけないと感じました。



毎日することはあり、やらなくてはならないこと、責任を果たさなければならないことなどをたくさん抱えているのですが、それ以上に自分の信仰を熱く保ち続けることが今後の働きにとって重要であると感じました。

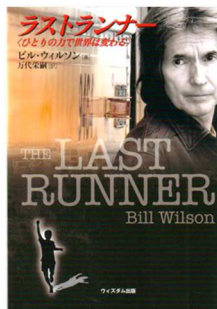
おうち時間にメトロ・ワールド・チャイルドを！

ビル師著(万代栄副訳)の本をご紹介します。メトロの原点や現地でのメトロの働きを、身近に感じるチャンスです！プレゼントにも喜ばれ、勇気が与えられること間違いなしの1冊です！



『この子だれの子』
いのちのこば社
1,500 円

ニューヨークのスラム街に生きる子供たちを、何とか救いたいと、命がけで戦い続ける牧師のリアルな現実を綴った感動の1冊。



『ラストランナー』
ウイズダム出版
1,200 円

ビル・ウィルソンの実践に基づく確信に満ちた言葉は、どのような世代どのような人々の心にも、感動と燃える思いを呼び起こします。

英語版(原書)もご紹介します。
ぜひお問い合わせください。
書籍・DVDの販売については

ウイズダム出版 と検索！



日本事務所からの重要なお知らせとお願い

献金受付中！

メトロでは、コロナウイルスの影響の中でもなお、世界各地の拠点で活動が続いています。アメリカでは、従来のように大勢の子どもを集めて日曜学校を開催することはできなくなりましたが、オンラインでみことばを語ったり、電話で子どもたちに福音を伝えたりしています。各国のメトロの活動を支援するため、献金を募集しています。ぜひご協力をお願いいたします。

お振り込み先口座

ゆうちょ銀行 一六九店 当座預金0041610
メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン

スポンサーの方は、月々のスポンサー代と一緒に献金を引き落とすこともできます。日本事務所までご連絡ください。

ケニアのクリスマス！

ケニアでは、公立の学校内でメトロの教会学校を開催していますので、年度替わりの休暇に入る前の10月にクリスマスを行います。

そのため、クリスマスカードやクリスマスプレゼント、キャンププレゼントも、8月末から9月初めに締め切りとなります。

来月号でご案内をしますので、プレゼントの詳細とお申し込み方法は、来月号をご覧ください。

また、クリスマスカードは、手に入りにくいと思いますので、通常のグリーティングカードや、手作りカードでご対応ください。

日本事務所のボランティアスタッフが英訳しますので、カードは日本語でも大丈夫です。

NY インターン生募集中！

2020年9月から2021年6月27日(10ヶ月)のニューヨークでのインターン生を募集します。費用は8000ドル(滞在費・食費込み)です。全額を9月1日までに支払われる場合は、500ドル割引されます。研修には、コミュニケーションがとれる程度の英語力と度胸が必要です。

日本人の参加には、英語の語学力その他の確認が必要です。必ず事前に面接を受けていただきます。参加ご希望の方は、すぐに日本事務所までご連絡ください。

※受信したメールには必ずご返信します。返事がない場合は迷惑メールフォルダやごみ箱をご確認の上、見当たらない場合はお問い合わせください。

日本事務所よりごあいさつ！

皆さんの日常は、徐々に通常の動きに戻っていますでしょうか？ まだコロナの影響が残る方など状況は様々だと思います。いずれにしても日本は、コロナの脅威からは、驚くほど守られていると言えます。

しかし、メトロの活動する貧困地域でのコロナウイルスの影響は深刻です。その上、各地で発生する洪水やバツタの大群の被害など、一刻を争う状況となっています。

このレポートでご紹介したように、メトロではそのような状況に生きる子どもたちと家族の命をひとりでも守るため、今年末までに4,000人の子どもにスポンサーを探すと、無謀とも思える目標を掲げました。どうぞお祈りください。また、ご協力いただける方は、すぐに日本事務所にご連絡をください。

皆様の上にも主の守りと祝福を祈りつつ。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんだい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座4-5-1
教文館6階 TFC内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、下記宛をお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン